

ひなもろこ

令和5年度 第1号

福岡県立田主丸特別支援学校

<http://fhtanuyo.fku.ed.jp/>

令和5年6月9日

発行者 福岡県立田主丸特別支援学校長

担当 支援連携課 地域支援係

福岡県久留米市田主丸町石垣1190-1

TEL 0943-73-1537

FAX 0943-72-4341

「ひなもろこ」…日本では、田主丸の川にのみ生息する久留米市の天然記念物です。

向暑の候、皆様にはますますご健勝のことと存じます。

本校では、地域の皆様への特別支援教育の情報の発信や教育相談、研修協力等の地域支援を行っています。子どもの課題整理や、個別の教育支援計画や指導計画等の具体的支援内容など、子どもに必要なサポートについて相談を受付けています。また、他の特別支援学校や専門関係機関との連携支援も行っています。子どもに応じた支援について一緒に考えていきましょう。

本校の教育相談のご案内

教育相談では、特別支援教育に係る方々へ、以下のような支援をいたします。

- 家庭や学校における、子どもへの関わり方や支援の工夫について
- 子どもに応じた指導内容や指導方法、教材教具の工夫等について
- 子どもの実態把握や課題への対応の仕方や配慮事項について
- 特別支援教育に関する情報の提供や教材教具等の紹介、備品の貸し出し
- 子どもへの直接的な支援や関わり、進路や福祉情報提供など

電話相談 月曜日～金曜日 14:00～17:00

来校相談 月曜日～金曜日 14:00～17:00

※日程や時間帯は調整させていただきます。

※相談の費用は無料です。相談内容等についての秘密は厳守します。

お電話で教育相談とお伝えください。0943-73-1537(代)

巡回相談についてのお知らせ

今年度も県の事業として、「発達障がい児等教育継続支援事業に係る巡回相談」が行われています。気になる子どものケース会議や研修支援、保護者相談などに対応します。必要に応じ臨床心理士等からの専門的な情報が得られる機会となります。Aタイプ(講話型)Bタイプ(支援体制型)Cタイプ(個別相談型)Dタイプ(連携支援型)、混合タイプなど、学校や学級のニーズに応じた支援事業です。是非ご活用ください。所属によって、申請先が以下のようになっています。

- ・市町村立幼稚園・学校は各教育事務所へ
- ・私立の幼稚園等は私立幼稚園振興協会事務局へ
- ・保育所は県の保育協会事務局へ
- ・私立の小・中・高等学校等は私学協会事務局へ
- ・県立中学校・高等学校等は北筑後教育事務所へ

地域支援研修会についてのお知らせ

今年度は講師として、こぐま福祉会 児童発達支援センターはぐ 園長であり、理学療法士でもある木下義博先生をお迎えして研修会を行います。木下先生は、長年にわたり肢体不自由児・者への療育に携わり、また、特別支援学校への保育所等訪問支援も行い、家庭と療育施設と学校の連携にもご尽力されております。

〔日程〕 令和5年8月1日(火) 10:00~12:00(受付 9:30~)

〔場所〕 福岡県立田主丸特別支援学校

〔内容〕 「肢体不自由のある子どもへの将来を見据えた支援・指導の在り方」

講師: 社会福祉法人 こぐま福祉会 児童発達支援センター はぐ 園長 木下 義博先生

※参加費無料



※ 別途配布の申込用紙によりお申し込みください。

校内研修会報告

ICTの活用~入力支援機器~

肢体不自由のある子どもが、タブレット端末を操作したり、玩具で遊んだり、意思表示したりする方法があります。その一つは、スイッチや目の動きで操作する方法です。これらを総称して入力支援機器といいます。入力支援機器を活用するとどのような利点や効果があるのでしょうか。「スイッチを押す→何かが起こる」という仕組みを体感することで、因果関係を学ぶことができます。肢体不自由のある子どもも、やりたいことを自分でやるということを可能にします。自分でできることで達成感を味わうことができ、自己肯定感を高めることにもつながっていくでしょう。そして、人とのコミュニケーションや集団への参加というように広がっていきます。このように、利点や効果が期待できますが、活用する中で振り返るポイントもあります。それは、活用する機器が児童生徒の発達に合っているか、使用する目的は何か、教師のさせたいことになっていないか、児童生徒の負担になっていないか等です。無理をして支援機器を使用するのではなく、選択肢の一つとして活用することが大切です。この入力支援機器に興味のある方は、本校の支援連携課までお問い合わせください。



表情について



ここ数年で、感染症対策のためにマスクを着用することが日常になってきました。顔の半分ほどがマスクに覆われ、お互いの表情を読み取り難く感じているかもしれません。人間は顔の表情の変化によって感情を伝え合っています。表情の変化にかかわっている顔の筋肉は30種類以上もあり、表情筋と呼ばれています。この表情筋が複雑に動くことで、うれしい時には笑顔が作られ、怒った時には目を吊り上げるなど、豊かな表情が作られています。しかし、マスクの下で表情をいくら動かしても相手に伝わらないのでは、円滑なコミュニケーションは行えません。顔の表情に頼らずに相手に感情を伝えるには、声音の変化や、アイコンタクトのように目の動きで伝える方法もあります。手や身体全体で表現することもできます。これらもまた、感情を伝えるための表情のひとつと言えます。どうにも相手に自分の思いが伝わっていないと感じた時には、相手の目をしっかり見据えて声音も意識しながら、少し大げさな身振りや手振りなどで伝えると上手く行くかもしれません。ぜひ試してみてください。